

事業群評価調書(平成28年度実施)

基本戦略名	1 交流を生み出し活力を取り込む	事業群主管所属	文化観光国際部文化振興課
施策名	(2) 本県ならではのソフトパワーの活用・発信	課(室)長名	古謝 玄太
事業群名	① 世界に通用する長崎県の歴史文化の活用と発信	事業群関係課(室)	地域づくり推進課、国際課、建設企画課

1. 計画等概要

【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)】

《長崎県総合計画チャレンジ2020 本文》

長崎の地域学や日本遺産、本県とつながりの深い偉人たちなどを素材に、それらが結び合わさって相乗効果を生み、新たな資源として活用できるよう取り組みます。

事業群指標	最終目標 (H32)	基準値 (H27)	実績 (H27)	達成率	【進捗状況の分析】
日本遺産認定数(累計)	3箇所	1箇所	1箇所	—	平成27年度に文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定する「日本遺産」を創設し、全国から申請された83件の中から18件が第1号として認定された。本県から申請した、対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町にまたがる構成遺産からなる大陸と本県との交流の足跡のストーリー「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」も認定され、また平成28年度においては「日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～」と「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～」の2件が認定されている。
事業群の進捗状況					

【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)の分析】

《取組項目及び現状と課題》

- i) 長崎の歴史研究の推進と活用、日本遺産認定への取組と活用、長崎の地域学や地域資源、日本遺産等を通じた長崎固有の歴史・文化の県内外への発信・活用
- ・本県は他県にない海外との長い交流の歴史等の特色ある歴史文化を有しており、「日本遺産」の認定等による磨き上げや歴史ツーリズムの展開、戦略的な発信を行うことが、地域振興、交流人口の拡大に繋がる。
 - ・本県の特色ある歴史文化は、研究者の調査・研究の対象となっており、その基準を国際的レベルに引き上げ、その成果を効果的に情報発信することが、更なる「日本遺産」の認定等に繋がる。
 - ・本県は江戸時代以降、全国に先駆けて導入された中国・西洋の土木技術により造られた土木施設を有しており、現存しているものや離島架橋など、歴史的・技術的に後世へ残すべき財産である「土木遺産」について、その果たしてきた役割や魅力を調査発掘することが、歴史ツーリズムを展開して行くことに繋がる。
- ii) 長崎ゆかりの偉人のさらなる顕彰や、中国、オランダとの交易の歴史などの切れ目ない情報発信による認知度向上と海外との交流拡大
- ・国際的に活躍した本県と繋がりが深い偉人の顕彰及び広報を行うことが、長崎固有の歴史・文化のわかりやすい発信となり、国際文化交流や、海外との交流人口の拡大に繋がる。
 - ・長崎ゆかりの偉人について顕彰を行うことが、郷土に誇りを持つことや国際的な視野を持った若者の育成等に繋がる。

2. 27年度取組実績

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					事業の成果等	中核事業		
			H27実績	一般財源	人件費(参考)	事業対象	事業内容 (事業の実施状況)	指標	主な目標	H27目標	H27実績	達成率				
			H28計画	一般財源	人件費(参考)					H28目標	H28実績					
取組項目 i	究める・つなげる「長崎の歴史」魅力発信事業 文化振興課	H27-29	13,168	13,168	32,224	研究者、県民及び観光客	本県の特徴ある歴史文化の研究への助成、県内に所在するミュージアムの活性化と施設間の連携、日本遺産認定の推進を実施。	活動指標	日本遺産に申請した件数	1	2	200%	平成27年度に文化庁が創設した地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定する「日本遺産」に、その第1号として「国境の島 壱岐・対馬・五島」が認定された。	○		
			15,522	15,522	32,260			成果指標	日本遺産に認定された件数	1	1	100%				
	振興局活動推進費(県北プロジェクト) 地域づくり推進課	(H28新規) H28-	—	—	—	関係市町、各市町商工・観光関係団体、窯業関係団体など	佐賀県及び関係自治体、団体等と連携し、地域共有の資源である「やきもの」を中心に地域の魅力等を国内外に広く発信し、誘客に向けた周遊対策などに取り組む。	活動指標	肥前窯業圏活性化のための協議開催回数(回)	—	—	—			—	
			42,665	0	14,517			成果指標	新たな肥前窯業圏活性化事業構築数(件)	—	—	—				
	土木遺産利活用検討事業費 建設企画課	(H28新規) H28-29	—	—	—	観光客	県内に数多く存在する土木施設を観光資源の一つとして活用するため、世界遺産や日本遺産などと連携した新たな観光周遊ルートの創設のための調査・検討を実施。	活動指標	県内土木遺産の調査(地域)	—	—	—			—	
			1,000	0	2,420			成果指標	新たな観光周遊ルートの提案(件)	—	—	—				
取組項目 ii	「孫文・梅屋庄吉と長崎」発信事業費 文化振興課	H22-29	8,924	8,924	16,112	県民等	梅屋庄吉と孫文、長崎と中国との関係を顕在化、顕彰するとともに広く情報発信と交流事業を実施。	活動指標	若年者向けの講演会等の開催回数(回)	3	3	100%	長崎歴史文化博物館での中国の3博物館のパネル展示、広州の「孫文と梅屋庄吉」展での広報を行い交流を拡大した。梅屋庄吉読書感想文コンクールや県内の3つの中学校で小坂文乃氏(梅屋庄吉の曾孫)の講演会を開催し、国際的な視野を持つ若者の育成に寄与した。これらの活動により県内の梅屋庄吉の認知度は82%に向上した。	○		
			8,115	8,115	16,130			成果指標	梅屋庄吉の県内認知度(%)	77	82	106%				
	中国プロジェクト重点推進事業費 国際課	H26-28	10,466	10,466	7,250	県民、中国国民等	・日中「孫文・梅屋庄吉」塾を開催し、日中両国の若者に、様々なテーマで議論したり本県と中国の交流の歴史を学ぶ場を設け、今後の本県と中国、ひいては日中交流の発展に貢献できる人材の育成を図った。 ・鄭成功を活用した情報発信の一環として、福建省アモイ市の国際観光展へ出展したほか、華僑大学アモイキャンパスにおいて、鄭成功をテーマとした講演会を実施するなど鄭成功とゆかりのある長崎県の認知度向上を図った。	活動指標	H27: 相互交流の回数(回)	4	4	100%			・日中「孫文・梅屋庄吉」塾の開催は、日中双方の青少年の相互理解を深める貴重な機会となり、今後の本県と中国の発展に貢献できる人材育成を図ることができた。 ・福建省アモイ市の国際観光展において、ブース訪問者へアンケートをした結果、約9割が長崎県に関心を持ったと回答するなど、長崎県の認知度向上につながった。	○
								活動指標	H28: イベントの開催(回)	1	—	—				
			成果指標	H27: 相互交流満足度(%)	80			100	125%							
			成果指標	H28: 長崎に関心を持つようになった来場者の割合(%)	80			—	—							

3. 検証及び問題点の抽出

【課題解決に向けて取り組んだ事務事業の実績の検証】

- i) 本県の特徴ある歴史文化の学術調査及び研究を国際的レベルに引き上げ、その成果を効果的に情報発信することにより、観光及び地域の振興並びに国際交流の一層の推進を図るため、本県の歴史文化を対象とした調査・研究に対して助成を行う「学術文化研究費補助金」を平成27年度に創設し、5件の助成を行った。
- ・平成27年度に文化庁が創設した「日本遺産」に、第1号として「国境の島 豊岐・対馬・五島」が認定され、県、関係市町、民間事業者で構成する「日本遺産『国境の島』推進協議会」を設立し、地域振興につながるよう情報発信、ガイドの育成、講演会等を行っているが、更に戦略的に情報発信を行い交流人口の拡大に繋げていく必要がある。
 - ・平成28年度から新たに取組んでいる土木遺産活用推進事業については、土木施設を観光資源の一つとして活用するため、世界遺産や日本遺産などと連携した新たな観光周遊ルートの創設のための調査・検討に取り組んでいるところである。
- ii) 中国の革命家孫文を物心両面から支えた本県出身の梅屋庄吉の功績を顕在化し、情報発信、海外との交流拡大のために、長崎歴史文化博物館において中国湖北省武漢の3博物館のパネル展示、同3博物館での長崎紹介のパネル展示、広州市の「孫文と梅屋庄吉」展での広報等を行い、中国との文化交流・認知度の拡大に努め、梅屋庄吉読書感想文コンクールや県内3つの中高校で孫文と梅屋庄吉の友情をテーマとした講演会を開催し国際的な視野を持った若者の育成等に寄与した。また、中学校の教科書掲載を働きかけ、掲載が実現した。これらの活動の結果、平成27年度の県内の梅屋庄吉の認知度は、平成26年度の77%から82%に向上した。
- ・今後も梅屋庄吉の認知度向上に向けた取り組みを継続していくとともに、これまで積み上げた友好関係を生かして、さらなる中国との文化交流の拡大を図って行く必要がある。



4. 29年度実施に向けた方向性

【問題点解決に向けた方向性】	【個別事務事業の見直し】			
	事務事業名	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
i) 日本遺産を活用し地域振興につなげるために、アクティブシニア層、外国人観光客等、戦略的な情報発信を強化していく。	究める・つなげる「長崎の歴史」魅力発信事業	②	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、本県が認定された3件の日本遺産をPRするために、アクティブシニア層や外国人観光客をターゲットとした雑誌等への掲載、ホームページ等での情報発信の更なる多言語化、日本橋長崎館でのイベント開催等に取り組んでいく。 ・平成29年度は、国内外の観光客にとってさらに魅力的な素材となるよう、構成文化財にまつわるストーリーの深堀りを行うとともに、県観光連盟とも連携しながら日本遺産による本県への誘客を強化していく。 	拡充
	振興局活動推進費(県北プロジェクト)	⑤、⑥	<ul style="list-style-type: none"> 成果・実績の検証により、改善すべき点を洗い出し、さらなる誘客促進や政策間連携を行うなど、より成果に結びつく取組となるよう、佐賀県及び関係自治体、関係団体との連携や情報共有を十分に図りながら取組を推進していく。 	改善
	土木施設を観光資源の一つとして活用するため、新たな観光周遊ルート創設による歴史ツーリズムの展開を強化していく。	土木遺産利活用検討事業費	②	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、長崎と佐世保の2地区において世界遺産や日本遺産などと連携した観光周遊ルートの案を作成し、モニターツアーにより内容の検証を行う。 ・平成29年度については、その検証結果を元に、土木遺産を活用した観光周遊ルートの商品化や広報活動、ガイドブックの作成を観光部局と連携して行うとともに長崎・佐世保以外の地区での観光周遊ルートの構築も図る。
ii) 長崎の偉人・梅屋庄吉の生誕150周年を機に、記念イベントの開催等による情報発信を強化していく。	「孫文・梅屋庄吉と長崎」発信事業費	①、③	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、孫文生誕150周年を契機に、児童書(中国語版)の制作や荒尾市・上海市等と連携した展示会を開催することにより、孫文を支援した梅屋庄吉の情報発信及び中国との交流を強化する。 ・平成29年度は、これまでの取り組みによる中国との友好関係を今後も生かしていくために、香港梅屋庄吉写真館跡の案内板の設置等、梅屋庄吉生誕150周年に向けて中国への情報発信を強化し、更なる交流人口の拡大に向けて取り組んで行く必要がある。 	現状維持
	中国プロジェクト重点推進事業費	④	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度においては、孫文、鄭成功、隠元など長崎とゆかりのある偉人にスポットをあてたシンポジウムを在日華僑華人団体と連携して開催するほか、アモイ国際レジャー観光博覧会でのブースの出展により本県の認知度向上を図る。また、県内企業の海外展開の足掛りとして、急速に高齢化が進行している中国における高齢者ビジネスに関するセミナーを日本貿易振興機構(JETRO)長崎貿易情報センターとの共催により開催。 ・平成29年度に向けては、歴史的なゆかりやこれまでの交流の成果を活かしながら、実利の獲得に繋がるような実効性の高い事業構築を図っていく。 	拡充